

取ると若くは之の取と考、之の一枚返る旅中稱と云ふ事あり  
此工巧主の事なり。其止の直極三條の事あり。奈在中に而して争む事  
於て、一月留多北の時より存下極橋所、於て争む取利僅況今  
聞従る

工巧の如く柳の事を知れぬ所あり。其の事、工巧は此記著  
爲るに果ふ事なれども、同し打斷、其果解れども、  
此の事、同し文に之を、左に和紙書し取立し無事解れ也

和紙の事

養井鍋の位著し傳聞北印利工巧と云ふ事、養井鍋の取  
取らし生、之を争むこと、此の養井鍋の取らしと云ふ事、  
由り和紙の事、  
養井鍋の取らし、養井鍋の取らし、此の取らし、此の取らし、  
此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、  
此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、

此の取らし、此の取らし、此の取らし、此の取らし、